

[原著論文：査読付]

留学生の受け入れと日本人学生の海外派遣に関する一考察
——九州共立大学の取り組みを中心に——

黄 冬柏¹⁾，沙 秀程²⁾，荻原 桂子³⁾，沈 若冰⁴⁾

A Study on the Acceptance of International Students
and the Dispatch of Japanese Students Abroad
— With a Focus on Efforts of Kyushu Kyoritsu University —

Dongbai HUANG¹⁾，Xiucheng SHA²⁾，Keiko OGIHARA³⁾，Ruobing SHEN⁴⁾

Abstract

In this paper, the authors first confirm the government's policy and the current status of the acceptance of international students and the Japanese students studying abroad, and then conduct research on the actual situation of those of Kyushu Kyoritsu University. And after that, they discuss some issues of accepting the international students and the Japanese students' studying abroad in terms of international exchange by closely examining the above university's recent programs to experience Chinese culture.

KEY WORDS : International exchange, acceptance, dispatch

1) 九州共立大学経済学部
2) 九州共立大学共通教育センター
3) 九州女子大学人間科学部
4) 福原学園国際交流・留学生支援室

1) Kyushu Kyoritsu University, Faculty of Economics
2) Kyushu Kyoritsu University, Career and General Education
3) Kyushu Women's University, Faculty of Humanities
4) Office of International Affairs, Fukuhara Gakuen University Consortium

1. はじめに

グローバル化が進展する中、国際感覚を身につけて異文化への理解と受容ができる人材を育成するため、大学の外国人留学生の受け入れと日本人学生の海外留学が求められている。九州共立大学(以下「本学」と略す)においても第3次中期経営計画(2019年度～2023年度5ヵ年計画)の中で事業方針として「教職員と学生とのコミュニケーションの活性化を図るとともに学生支援体制を充実し、学生の満足度を向上させる」ことを定めた上、具体的な施策として、「国際交流システムを構築するため、グローバル化への対応の強化と海外協定校との連携の充実」を掲げている。つまり、海外研修・異文化体験・短期留学などの国際交流プログラムの実施を通して、海外協定校からの留学生の受け入れを促進しながら、本学学生の国際社会への関心呼び起こし、海外留学に結びつけていくことである。

本稿では、外国人留学生の受け入れと日本人学生の海外留学に関する政府の政策と現状を確認した上、本学における外国人留学生受け入れの取り組みおよび日本人学生海外派遣の実態を調査し、近年実施された中国文化体験プログラムを検証することによって、国際交流における留学生の受け入れと学生の海外留学の諸問題について考えてみたい。

2. 国際交流における留学生の受け入れ

近年、「留学生30万人計画」や外国人在留資格の緩和など、外国人の受け入れに積極的な政策が取られている。こうした状況の中、日本国内の大学等の教育機関に在籍している外国人留学生総数はついに30万人近く達しており、このうち学部留学生の8割が私立大学に在籍していることから、私立大学において今後の国際化を巡る情勢は見逃せないものとなっている。

2.1 留学生受け入れに関する政策と現状

独立行政法人日本学生支援機構(JASSO)が実施した「平成30年度外国人留学生在籍状況調査等について」によると、平成30年5月現在の外国人留学生数は298,980人であり、そのうち、高等教育機関に在籍する外国人留学生数は208,901人、日本語教育機関に在籍する外国人留学生数は90,079人となっている。出身国別に見ると、中国は114,950人、ベトナムは72,354人で外国人留学生数の1位と2位を占めている。¹⁾

振り返ってみると、日本政府は昭和58年8月に中曾

根康弘首相(当時)の指示に基づき、21世紀初頭に留学生を10万人受け入れる、いわゆる「留学生受け入れ10万人計画」を策定し、留学生交流の推進に努めてきた。その結果、大学などの教育機構で学ぶ留学生数は大幅に伸びて、平成15年には109,508人となり計画の目標が達成できた。また、平成15年12月に発表された中央教育審議会答申の中で、留学生交流の意義については、「我が国の大学などの国際化、国際競争力の強化、諸外国との相互理解の増進と人的ネットワークの形成、国際社会に対する知的国際貢献」であると指摘した上、留学生交流の基本的な方針については、「留学生の受け入れ・派遣の両面で一層の交流を推進、留学生の質の確保と受け入れ体制の充実」を掲げている。留学生政策の実施状況と在り方についても、官邸主導の「アジア・ゲートウェイ構想」(平成19年5月16日アジア・ゲートウェイ戦略会議決定)、「教育再生会議第二次報告書(平成19年6月1日教育再生会議決定)」、「骨太の方針2007」(平成19年6月19日閣議決定)などにおいて、国家戦略としての留学生政策を策定・推進する旨が提言されていた。さらに、第169回国会(平成20年1月18日)における施政方針演説で福田康夫首相(当時)が、「新たに日本への『留学生30万人計画』を策定し、実施に移すとともに、産学官連携による海外の優秀な人材の大学院・企業への受け入れの拡大を進めます。」と述べたことを受け、文部科学省や外務省など六省は同年7月に「留学生30人計画」の骨子をまとめた。その概要は、日本を世界により開かれた国とし、アジア・世界の間のヒト・モノ・カネ・情報の流れを拡大する「グローバル戦略」を展開する一環として、2020年を目途に30万人の留学生受け入れを目指すことや、大学などの教育研究の国際競争力を高め、優れた留学生を戦略的に獲得していくこと、そして関係省庁・機関などが総合的・有機的に連携して計画を推進することなどである。具体的に、以下の方策を実施していくことが盛り込まれている。

(1) 日本留学への誘い

(日本留学の動機づけとワンストップサービスの展開)

日本文化の発信や日本語教育の拡大により、日本ファンを増やして日本および大学などへの関心呼び起こし、留学希望に結びつける。海外においては、在外公館や独立行政法人の海外事務所、大学などの海外拠点が連携して日本留学に係る各種情報の提供、相談サービスを実施し、留学希望者のためのワンストップサービスの展開を目指す。

(2) 入試・入学・入国の入り口の改善

(日本留学の円滑化)

必要な留学情報の入手から入学許可・宿舍などの決定まで母国で可能とする体制を整備する。また入国が円滑にできるよう、留学生の質にも留意しつつ入国審査などを見直す。

(3)大学などのグローバル化の推進

(魅力ある大学づくり)

留学生を引きつける魅力ある大学づくりとして、英語のみによって学位取得が可能となるなど大学のグローバル化と大学の受け入れ体制の整備について支援を重点化して推進する。国際化の拠点となる大学を30選定し重点的に育成し、留学生の受け入れや日本人学生の海外留学の推進を図るため、大学などにおける9月入学を促進する。

(4)受け入れ環境づくり

(安心して勉学に専念できる環境への取組)

宿舍確保の取り組みなど留学生が安心して勉学に専念できる受け入れ環境づくりを推進する。国費外国人留学生制度、私費留学生学習奨励費については、その改善を図りつつ活用し、留学生が留学後困らないよう、日本語教育機関・大学などの日本語教育担当部署をはじめとする国内の日本語教育を充実する。

(5)卒業・修了後の社会の受け入れの推進

(社会のグローバル化)

留学生が日本社会に定着し活躍するために、大学などはもとより産学官が連携した就職支援や受け入れ、在留期間の見直しなど社会全体での受け入れを推進する。

外国人留学生の就職状況について、平成28年6月に閣議決定された「日本再興戦略」の中で、日本国内での外国人留学生の就職率を3割から5割に増加させるという目標を掲げている。しかし、独立行政法人日本学生支援機構(JASSO)が実施した「外国人留学生の卒業後の進路状況および我が国の大学院における外国人留学生への学位授与の状況に関する調査」によると、平成29年度に卒業した外国人留学生の日本国内における就職率は32.4%であり、そのうち、大学(学部卒業)の就職率は40.5%となっている。前年度と比較して増加したとはいえ、約6割あまりの外国人留学生が日本に就職を希望していることに対して、希望者数と実際に就職できた者の数との間にギャップがあると認めざるを得ない。

留学生教育を所管する文部科学省は、こういった政府の政策を踏まえ、関係省庁などと密接な連携を図りつつ、実行可能な施策から順次着手し、受け入れ環境

の充実などに取り込んでいる。

2.2 本学における受け入れの取り組み

本学は、学是「自律処行(自らの良心に従い、事に処し善を行う)」を体現し、総合的な教養、特定専門分野に関する知識を身につけ、深い考察力を備える学生の育成を目指している。2020年に創立55周年を迎えることとなるが、時が流れても変わらないこの学是を建学の精神と教育の基本理念とし、自ら立てた規範に従って、自己の判断と責任の下に行動できる人材を社会に送り出すことを努めている。²⁾

本学は、学生支援の一環として国際交流と留学生教育を重視し、世界各国の大学と提携し、優秀な外国人留学生の獲得を積極的に行っている。2019年4月1日現在、本学は中国・アメリカ・オーストラリア・韓国などの国と地域の29の大学と友好交流協定を締結している。また、主に中国の大学との間で編入留学生の受け入れを行い、優秀な留学生の獲得に力を入れている。2019年9月までに学部生として合計1508名の外国人留学生を受け入れたが、そのうち、12の海外協定校からの入学者は644名、国内外の短期大学及び日本語教育機関からの入学者は864名となっている。その他、ヴェネツィア「カ・フォスカリ」大学(イタリア)・モンテレイ工科大学ケレタロ校(メキシコ)・大邱大学校(韓国)・上海海洋大学(中国)などの大学から総数207名の短期留学生も受け入れた。

本学における受け入れの主な取り組みをまとめると以下の通りである。

(1)日本語教育と日本文化理解の支援

本学は、留学生にとって必要な日本語能力の習得及び向上を支援するために、初級レベルから上級レベルのカリキュラムを提供している。入学した留学生に対して、プレースメントテストを実施し、そのテストの結果に応じてクラスを分け、レベルによってきめ細かい指導を行っている。担当教員が学生のレベルと特徴に合わせて指導した結果、受講生のモチベーションを高め、学習意欲を最大限に引き出している。また、学部留学生は、学部の授業に支障がない範囲内で、無料で日本語授業を聴講することができる。

一方、日本語の勉強は大学の教室で行うと同時に、ボランティア・チューターの個人指導によって実践的な日本語を習得させている。ボランティア・チューターとは、留学生の日本語学習及び日本文化理解を手助けしてくれる一般市民の方々である。留学生のサポートに意欲を示した一般市民に対して、面談を実施し異

文化交流の特性と注意点などを説明したうえでチューターとして登録していただいた後、留学生との相性を確認しながら指導を依頼する。チューター1人につき、基本的に1名または2名の留学生を担当し、話し合いの形で指導を進めている。チューターと留学生との指導内容は、日本語や日本の生活についての質問に答えることや、最近の日本社会の事情について説明すること、時には学生の悩みに耳を傾けること、または逆にボランティアの方から学生に質問することなど、豊富多彩である。チューターとの交流により、留学生は、通常の授業では得られない、貴重な“何か”を得ることができる。留学生、特に日の浅い留学生にとって、一対一で向き合ってくれるチューターは様々なことが相談できる良き先生として、また良き友人として大変貴重な存在となっている。

(2) 国際交流行事の実施

国際交流を進める上で欠かせないのが、地域との連携である。留学生と日本人学生及び地域の皆様との交流を深めるため、「留学生を囲むクリスマスパーティー」、「留学生との交流会」などを開催すると同時に、「折尾まつり」、「留学生文化祭in北九州」などの地域行事に留学生を派遣し、地域のグローバル化への貢献を積極的に推進している。

① 折尾まつりで国際屋台を出店（6月第1土曜日）

「折尾まつり」は折尾地域を代表するイベントである。この地域の一大行事を応援するため、毎年、本学と九州女子大学（系列校）の留学生が美味しい母国料理や素晴らしい民族舞踊を用意し、来場者を喜ばせている。

② 留学生との交流会（10月下旬）

本学と九州女子大学で学ぶ留学生と市民ボランティア・チューター及び日本人学生との親睦を深めるため毎年開催している。BBQなどの共同作業を通じて参加者たちが自然にコミュニケーションを取ることができるのはこの交流会の魅力である。

③ 北九州市主催の国際交流イベントの参加（8月上旬・11月下旬）

毎年夏に開催される「2019年わっしょい百万夏祭り」（8月上旬）のパレードに本学の留学生が積極的に参加している。今年の8月4日に28団体の一つとして「九州共立大学留学生チーム」と称して、35名の留学生が参加した。

また、平成30年度から開催される「留学生文化祭in北九州」（11月下旬）には本学の留学生が毎年屋台を出店し、本場の母国料理を披露して好評を博している。

④ クリスマスパーティーの開催（12月中旬）

毎年年末に行われているクリスマスパーティーは、多くの方に親しまれ、大勢の参加者を迎えている。パーティーでは、会食のほか学生による踊りの披露、ビンゴゲームなど楽しいプログラムが盛りたくさんあり、いつも満員御礼になるほどの人気行事である。

こういった国際交流行事を通して、留学生は充実した大学生活を送りながら、日本人と交流し、生きた日本文化に触れることができると同時に、参加したイベントをすべて忘れがたい思い出になるだろう。

(3) 卒業後の進路支援

本学の経済学部において直近3年間の学部留学生（海外協定校から）の日本での就職率と大学院進学率は次の通りである。

表1：経済学部卒業留学生日本での就職率・大学院進学率

卒業時期	就職率	大学院進学率
2017年3月	17.6%	29.4%
2017年9月	23.1%	12.8%
2018年3月	20.0%	0.0%
2018年9月	6.3%	18.8%
2019年3月	22.2%	0.0%
2019年9月	14.5%	21.8%

前述したように、約6割あまりの外国人留学生が日本に就職を希望しているようである。本学の場合、多くの留学生が就職ではなく、日本での大学院進学を希望するので、一概に言えない部分もあるが、希望者数と実際に就職・進学できた者数との間にギャップがあると認めざるを得ない。日本国内での外国人留学生の就職率を3割から5割に増加させるという政府の目標を達成するため、在学中から、日本語・日本文化及び専門知識の勉強はもとより、自ら日本企業の状況を調べ、積極的にインターンシップに参加するなどの行動を起こすよう指導するなど、より外国人留学生が日本での就職をしやすいという方向へ導く必要がある。本学は、留学生には進学希望者が多いという特性から進学希望者への配慮も行っている。入学した留学生に個人面談を通して一人ずつ希望を確認した上、日本での就職や大学院進学および本国に帰るといそれぞれの進路に応じてあらゆる支援を行っている。卒業後、日本に留まればきちんと就職あるいは進学ができるように、本国に戻られるのであれば帰国したあと親日派という形で日本とのネットワークを繋げるというサポ

ートをしっかり行っていかなければいけないと思われる。

3. 国際交流における日本人学生の海外留学

3.1 学生の海外留学を巡る現状

OECD・ユネスコ・米国国際教育研究所(IIE)などの2016(平成28)年統計によると、日本人の海外留学者数は55,969人であり、留学者数の多い国・地域は、アメリカ合衆国18,780人、中国13,595人、台湾7,548人であった。³⁾ また、独立行政法人日本学生支援機構が実施している「協定等に基づく日本人学生留学状況調査」によると、大学などが把握している日本人学生の海外留学数は、2017(平成29)年度で105,301人となり、留学生数の多い国・地域は、アメリカ合衆国19,527人、オーストラリア9,879人、カナダ9,440人であった。ただ、留学期間からみると、留学者総数105,301人のうち、1か月未満は66,876人、1か月以上1年未満は35,797人、そして1年以上の長期という者は2,022人と非常に少ない。よって、学位取得を目的とした留学が非常に少ないのは現状である。

3.2 本学における海外留学の取り組み

本学は、外国人留学生を積極的に受け入れていると同時に、日本人学生の海外派遣においても力を入れている。グローバル化に対応し、世界で活躍できる人材を育てるために、海外の大学と連携して短期研修から長期派遣までの様々な留学プログラムを組んで積極的に学生を送り出している。また、近年の世界情勢を鑑み、海外渡航が未経験の人でも安心して渡航できるように、海外での危機管理を中心に海外渡航する際の必要手続きや注意事項などをまとめ、「留学・海外渡航ガイド」サイトを立ち上げた。さらに、留学を希望する学生に対して、担当スタッフがきめ細やかに対応しながら最適なプログラムを学生とともに考える。2019年9月までに、延べ565人の学生が本学の海外留学プログラムに参加した。

本学が実施している主な留学プログラムは以下の通りである。

(1) 短期海外研修プログラム

在学生の国際感覚と語学力を養うため、例年夏期と春期に、海外姉妹大学などで運営されている語学・文化研修に参加できるプログラムを実施している。研修期間はおおよそ2～5週間で、少人数でも参加できる。一定の条件を満たした研修参加者には、単位の認定も

行っている。2019年9月まで、総数195名の学生がこの短期海外研修プログラムに参加した。2019年度は、5ヶ国・地域9コースのプログラムが実施される予定である。

表2：短期海外研修プログラム

コース	研修先大学	研修日程
A	アバリストウィス大学(英国)	2019年8月9日～8月27日
B	アバリストウィス大学(英国)	2019年8月9日～9月10日
C	ユニテック工科大学(ニュージーランド)	2019年8月9日～9月8日
交換交流	ユニテック工科大学(ニュージーランド)	2019年8月9日～9月8日
H	リジャイナ大学(カナダ)	2019年8月9日～9月1日
D	大邱大学校(韓国)	2020年2月2日～2月22日
E	フリンダース大学(オーストラリア)	2020年2月7日～3月15日
F	ユニテック工科大学(ニュージーランド)	2020年2月21日～3月21日
G	リジャイナ大学(カナダ)	2020年2月29日～3月22日

(2) 中国文化体験プログラム

中国の上海海洋大学は2005年11月に本学と友好交流基本協定を締結し、頻繁に相互訪問などを実施し、親睦を深めてきた協定校である。しかし、学生交流分野においては、同大学は2019年4月まで本学に167名の編入留学生・6名の短期留学生を派遣したのに対し、本学は2015年まで同大学に学生派遣を行った実績がなかった。2016年5月、双方向的な学生交流を強く希望した上海海洋大学は、福原学園の設置校である本学と九州女子大学からの日本人学生の受け入れを目的とする中国文化体験プログラムを提案した。上海海洋大学外国語学院日本語学部と福原学園国際交流・留学生支援室の携わる教職員が周到に準備した結果、2016年第一回から今年の第4回まで無事に実施された。実施後に行われた参加者へのアンケート調査で、本プログラムに参加した学生から大変よいと評価された。4回を実施した中国文化体験プログラムの参加学生人数は表3にまとめた通りである。

表3：中国文化体験プログラム参加者人数

年(回数)	九州共立大学	九州女子大学	合計(定員)
2016年(第1回)	7	6	13(15)
2017年(第2回)	6	5	11(12)
2018年(第3回)	10	9	19(20)
2019年(第4回)	12	12	24(20)
合計	35	32	67(67)

本プログラムの目的は、上海海洋大学を訪問し、在学生と交流しながら中国人家庭および上海の名勝などを見学し、中国文化と民俗を体験することである。

2019年9月に実施した第4回中国文化体験プログラムの日程および主な活動内容は以下の通りである。

表4：第4回中国文化体験プログラム
(2019年9月2日～9月8日)

月日	時間	主な活動内容
9月2日 (月曜)	午後 夜	福岡空港発 (MU518便) 上海浦東空港着、上海浦東空港から上海海洋大学へオリエンテーション、夕食
9月3日 (火曜)	午前 午後	開講式、日中学生交流、中国語を楽しもう 文化交流：中国の楽器鑑賞 (古琴・笛・二胡)、歓迎夕食会
9月4日 (水曜)	午前 午後 夜	東方明珠タワー・上海民俗博物館見学 家庭訪問 (中国人の日常生活体験)、上海の名園——豫園散策、小籠包食べる バンドで上海の夜景観覧
9月5日 (木曜)	午前 午後	「赤い中国結び」・中国書道教室 日中学生卓球大会、日本語科学生との交流会、中国武術体験教室
9月6日 (金曜)	一日	上海ディズニーランド遊覧
9月7日 (土曜)	午前 昼・午後	振り返り・アンケート・閉講式 歓送会 自由時間
9月8日 (日曜)	午前 昼・午後	上海海洋大学から上海浦東空港へ 上海浦東空港発 (MU517便) 福岡空港着

このプログラムの最も大きな特徴は、滞在期間中に参加者と現地の日本語学科の中国人学生との交流が盛んに行われ、中国の若者や中国の風土人情を知ることができることである。現地到着後、本プログラム参加者のグループ分けが行われ、それぞれのグループに中国人学生ボランティアが配属された。そして、初日から最終日まで、この中国人学生スタッフがほとんどのグループ活動に同行し、日本人の学生の希望を聞きながら、通訳や案内・連絡調整などをしてくれた。三日目に行われた中国人家庭訪問も、訪問先は中国人学生ボランティアの家と設定することによって、距離感が一層縮めることができた。両国の学生がこのような触れ合いを通じて、友好と信頼関係がしっかり築くことができた。そのため、お別れの時にそれぞれ持ってきたプレゼントや折り紙・手紙を交換し、涙をこぼした人が多くいた。短い一週間であったが、日中の学生同士は友好的な絆をしっかりと結べたと思われる。

上海海洋大学はこのプログラムを高く評価し、来年度も継続的な交流を希望している。また、このプログラムに参加した上海海洋大学中国人学生のうち、4人が本学編入留学生の入試を受け来年4月に入学する予定である。一方、参加した本学の12名の学生は3組に分けて、2019年12月6日に開催した経済学部2019

年度学生研究・海外研修報告会において研修成果を報告した。このような双方向的な学生同士の交流を通して、海外協定校からの留学生の受け入れや本学学生の海外留学が促進された。グローバルな視点から、他者への寛容性、および自己発展のためのモチベーション形成など、大学生として必要不可欠な資質の涵養に繋がっていくことになった。

(3) その他の留学

本学は、学生が春・夏の休暇中に上記の留学プログラムに参加するほかに、在学期間中、海外の協定校に長期留学することや、卒業と同時に海外で新しい進路に挑戦することもできるようにサポートをしている。担当教職員が各種の資料を取り揃え、学生の要望に応じて適切なアドバイスをしている。2019年9月までに、経済学部が企画・主催した海外研修に延べ267名の学生が参加したほか、25名が在学中に海外協定校に私費留学し、8名が卒業後に海外協定校に留学した。さらに、JASSOが平成24年度までに実施した留学推進制度などの公費奨学金を利用して協定校に留学生した学生も35名いる。

4. おわりに

知識基盤社会のグローバル化が進展する中、国境を越えた学生の流動性が高まり、大学における国際的な競争が激しくなるとともに、共同・連携の動きも加速している。募集から企業への就職や大学院進学などを含む出口までの一貫した留学生教育においては、大学の教職協同によるきめ細やかな指導とサポートを施さなければならぬと思われる。

本学における外国人留学生受け入れの取り組みおよび日本人学生海外派遣の実態と中国文化体験プログラムの実施状況を考察してきた。留学生支援制度奨学金の活用や、実践的な語学教育の強化、海外協定校との単位互換、及びベトナム・韓国など新規海外協定校の開拓などの課題が残っているが、海外研修・文化体験・短期留学などの国際交流プログラムを通して、海外協定校からの留学生の受け入れを促進し、本学学生の国際社会への関心を高め、海外への留学に繋がっていくために、留学生教育に携わる教職員は、情熱と責任感及び国際理解の意識を持って職務を全うしなければならない。大学の各関係部署は密接な連携を図り、今後の課題を共有して解決し、すべて学生のために最善のサービスを提供することが求められている。

注

- 1) 独立行政法人日本学生支援機構 (2019) 「平成30年度外国人留学生在籍状況調査等について」 <https://www.jasso.go.jp/index.html>.
- 2) 本学の建学精神, 教育方針などの詳しい情報は「九州共立大学公式サイト」 (www.kyukyuo-u.ac.jp/) を参照.
- 3) 文部科学省 (2019) 「『外国人留学生在籍状況調査』及び『日本人の海外留学者数』等について」 (www.mext.go.jp/a_menu/koutou/ryugaku/1412692.htm).

参考文献

- 1) 江淵一公 (1997) 『大学国際化の研究』 玉川大学出版部.
- 2) 望田研吾 (2010) 『21世紀の教育改革と教育交流』 東信堂.
- 3) 横田雅弘・小林明 (2013) 『大学の国際化と日本人学生の国際志向性』 学文社.
- 4) 高城玲 (2017) 『大学生のための異文化・国際理解—差異と多様性への誘い』 丸善出版.
- 5) 小倉和夫 (2019) 『日本の「世界化」と世界の「中国化」—日本人の中国観二千年を鳥瞰する』 藤原書店.

〔付記〕

本稿は、平成31年度九州共立大学特別教育研究費（プロジェクト名：国際交流における留学生の受入促進と海外留学の推進に関する研究——上海海洋大学と本学の取り組みを中心に——），研究代表者：黄冬柏）の助成を受けて行った研究調査に基づいて作成したものである。研究調査および中国文化体験プログラムを実施した際、上海海洋大学外国語学院院長周永模教授、日本語学部長梁暹先生、同じく副学部長周艶紅先生をはじめ、上海海洋大学の先生方および学生スタッフの皆様大変お世話になった。また、福原学園国際交流・留学生支援室長黒木隆善先生、本学キャリア支援課の荒津智子さんが大変ご協力くださった。ここに記して感謝の意を申し上げたい。

Received date 2019年11月29日

Accepted date 2020年1月20日